

2022
STUDENTS'
GUIDE

全学教育科目履修の手引

名古屋大学

2022年度全学教育に関する行事予定表(教養教育院)

学期	月 日 (曜日)	行 事	備 考
春 学 期	4月 3日 (日)	新入生履修ガイダンス	
	4月 3日 (日) ~ 4月 4日 (月)	履修登録Web入力期間	※
	4月 4日 (月)	英語プレースメント・テスト(TOEFL ITP試験)	
	4月 5日 (火)	入学式	
	4月 6日 (水)	英語プレースメント・テスト(Criterion試験)	
	4月 7日 (木) ~ 4月 9日 (土)	1年生定期健康診断	
	4月 8日 (金)	履修科目Web確認開始 (1回目確認)	※
	4月 11日 (月)	春学期授業開始	※
	4月 11日 (月) ~ 4月 18日 (月)	履修登録修正Web入力期間	※
	4月 13日 (水) ~ 4月 28日 (木)	2年生定期健康診断(web予約)	
	5月 6日 (金)	履修科目Web確認開始 (2回目確認)	※
	6月 9日 (木)午後 ~ 6月 10日 (金)	名大祭による休講	◆曜日指定あり授業日
	7月 5日 (火)	春1期修得科目Web確認	4/23(土)[木曜午後] 5/14(土)[金曜]
	7月 25日 (月) ~ 8月 5日 (金)	試験・授業期間	
	8月 5日 (金)	春学期授業終了	
	8月 8日 (月) ~ 9月 30日 (金)	夏季休業	◆曜日指定なし授業 予備日 5/28(土) 7/23(土)
	8月 18日 (木) ~ 8月 19日 (金)	追試験 (予定)	
8月 25日 (木)	春学期修得科目Web確認		
8月 31日 (水) ~ 9月 2日 (金)	再試験 (予定)		
秋 学 期	9月 14日 (水) ~ 9月 22日 (木)	履修登録Web入力期間	※
	9月 27日 (火)	秋季卒業式	
	9月 29日 (木)	履修科目Web確認開始 (1回目確認)	※
	10月 1日 (土)	秋季入学式	
	10月 3日 (月)	秋学期授業開始	※
	10月 4日 (火) ~ 10月 11日 (火)	履修登録修正Web入力期間	※
	10月 25日 (火)	履修科目Web確認開始 (2回目確認)	※
	10月 28日 (金)	地震防災訓練	
	12月 17日 (土)	TOEFL ITP試験	
	12月 20日 (火)	秋1期修得科目Web確認開始	
	12月 28日 (水) ~ 1月 7日 (土)	冬季休業	
	1月 6日 (金)	Criterion試験	◆曜日指定あり授業日
	1月 13日 (金)	大学入学共通テストの準備(休講予定)	11/29(火)[木曜] 1/10(火)[金曜]
	1月 14日 (土) ・ 1月 15日 (日)	大学入学共通テスト	
	1月 26日 (木) ~ 2月 8日 (水)	試験・授業期間	
	2月 8日 (水)	秋学期授業終了	◆曜日指定なし授業 予備日 11/19(土) 1/21(土)
	2月 16日 (木) ・ 2月 17日 (金)	追試験 (予定)	
	2月 20日 (月)	秋学期修得科目Web確認開始	
3月 1日 (水) ~ 3月 3日 (金)	再試験 (予定)		
3月 27日 (月)	卒業式		

※『履修手続きに関する注意事項』参照

2022年度学年暦

※全学教育科目のみ該当する行事は赤い文字で表示してあります。

春学期

月	月	火	水	木	金	土	日	行事等
4	4	5	6	7	8	9	10	4/1~8 新入生ガイダンス等 4/4 英語 ^① リスニングテスト 4/5 入学式 4/6 英語 ^① リスニングテスト 4/11~6/12 春1期授業期間 4/23 春1期木曜午後開講授業の授業日
	11 ^①	12 ^①	13 ^①	14 ^①	15 ^①	16	17	
	18 ^②	19 ^②	20 ^②	21 ^②	22 ^②	23	24	
	25 ^③	26 ^③	27 ^③	28 ^③	29	30		
5	2 ^④	3 ^④	4 ^④	5 ^④	6 ^④	7	8	5/1 名古屋大学記念日 5/14 春1期金曜開講授業の授業日 5/28 春1期授業予備日
	9 ^⑤	10 ^⑤	11 ^⑤	12 ^⑤	13 ^⑤	14 ^⑤	15	
	16 ^⑥	17 ^⑥	18 ^⑥	19 ^⑥	20 ^⑥	21	22	
	23 ^⑦	24 ^⑦	25 ^⑦	26 ^⑦	27 ^⑦	28	29	
	30 ^⑧	31 ^⑧						
6	6 ^①	7 ^②	8 ^③	9 ^④	10 ^⑤	11	12	(6/9午後~6/12 名大祭) 6/6, 6/13~8/5 春2期授業期間
	13 ^⑥	14 ^⑦	15 ^⑧	16 ^⑨	17 ^⑩	18	19	
	20 ^⑪	21 ^⑫	22 ^⑬	23 ^⑭	24 ^⑮	25	26	
	27 ^⑯	28 ^⑰	29 ^⑱	30 ^⑲				
7	4 ^⑤	5 ^⑥	6 ^⑦	7 ^⑧	8 ^⑨	9	10	7/23 春2期授業予備日 7/25~8/5 全学教育科目春学期 試験・授業期間
	11 ^⑩	12 ^⑪	13 ^⑫	14 ^⑬	15 ^⑭	16	17	
	18 ^⑮	19 ^⑯	20 ^⑰	21 ^⑱	22 ^⑲	23	24	
	25 ^⑳	26 ^㉑	27 ^㉒	28 ^㉓	29 ^㉔	30	31	
8	1 ^⑧	2 ^⑨	3 ^⑩	4 ^⑪	5 ^⑫	6	7	8/8~9/30 夏季休業 8/9, 8/10, 8/12 オープンキャンパス 8/18・19 追試験(予定)
	8	9	10	11	12	13	14	
	15	16	17	18	19	20	21	
	22	23	24	25	26	27	28	
	29	30	31					
9	5	6	7	8	9	10	11	8/31~9/2 再試験(予定) 9/21~30 G30新入生ガイダンス等 9/27 秋季卒業式
	12	13	14	15	16	17	18	
	19	20	21	22	23	24	25	
	26	27	28	29	30			

秋学期

月	月	火	水	木	金	土	日	行事等
10	3 ^①	4 ^②	5 ^③	6 ^④	7 ^⑤	8	9	10/1 秋季入学式 10/3~11/30 秋1期授業期間 10/28 地震防災訓練
	10 ^⑥	11 ^⑦	12 ^⑧	13 ^⑨	14 ^⑩	15	16	
	17 ^⑪	18 ^⑫	19 ^⑬	20 ^⑭	21 ^⑮	22	23	
	24 ^⑯	25 ^⑰	26 ^⑱	27 ^⑲	28 ^⑳	29	30	
	31 ^㉑							
11	7 ^⑤	8 ^⑥	9 ^⑦	10 ^⑧	11 ^⑨	12	13	11/19 秋1期授業予備日 11/29 秋1期木曜開講授業の授業日
	14 ^⑩	15 ^⑪	16 ^⑫	17 ^⑬	18 ^⑭	19	20	
	21 ^⑮	22 ^⑯	23 ^⑰	24 ^⑱	25 ^⑲	26	27	
	28 ^⑳	29 ^㉑	30 ^㉒					
12	5 ^①	6 ^②	7 ^③	8 ^④	9 ^⑤	10	11	12/1~2/8 秋2期授業期間 12/10 TOEFL ITP試験(学部3年次) 12/17 TOEFL ITP試験(学部1年次, 医学部保健学科3年次の一部) 12/28~1/7 冬季休業
	12 ^⑥	13 ^⑦	14 ^⑧	15 ^⑨	16 ^⑩	17	18	
	19 ^⑪	20 ^⑫	21 ^⑬	22 ^⑭	23 ^⑮	24	25	
	26 ^⑯	27 ^⑰	28 ^⑱	29 ^⑲	30 ^⑳	31		
1	2 ^②	3 ^③	4 ^④	5 ^⑤	6 ^⑥	7	8	1/6 Criterion試験(学部1年次) 1/13 大学入学共通テスト準備のため休講 1/14・15 大学入学共通テスト 1/10 秋2期金曜開講の授業日 1/21 秋2期授業予備日 1/26~2/8 全学教育科目秋学期 試験・授業期間
	9 ^⑦	10 ^⑧	11 ^⑨	12 ^⑩	13	14	15	
	16 ^⑪	17 ^⑫	18 ^⑬	19 ^⑭	20 ^⑮	21	22	
	23 ^⑯	24 ^⑰	25 ^⑱	26 ^⑲	27 ^⑳	28	29	
	30 ^㉑	31 ^㉒						
2	6 ^⑧	7 ^⑨	8 ^⑩	9	10	11	12	2/16・17 追試験(予定)
	13	14	15	16	17	18	19	
	20	21	22	23	24	25	26	
	27	28						
3	6	7	8	9	10	11	12	3/1~3 再試験(予定) 3/27 卒業式
	13	14	15	16	17	18	19	
	20	21	22	23	24	25	26	
	27	28	29	30	31			

※表中の数字右側の丸囲い数字は、各期で授業回数8回が確保されていることを示しています。授業は各部局あるいは各教員の判断で、学生とも相談の上、授業の空き時間帯、5時限目等を利用して実施されることがあり、授業回数を付した日に授業が行われない場合があります。土曜日・日曜日・祝日が授業日又は授業予備日となる場合、事務室が閉室しているなど部局により事務対応が異なります。

※表中の数字四角囲いは、授業予備日を示しています。

※表中の数字丸囲いは、祝日又は振替休日を示しています。

[春学期] 4/29 昭和の日 5/3 憲法記念日 5/4 みどりの日 5/5 こどもの日
7/18 海の日 8/11 山の日 9/19 敬老の日 9/23 秋分の日

[秋学期] 10/10 スポーツの日 11/3 文化の日 11/23 勤労感謝の日 1/1 元日 1/2 振替休日
1/9 成人の日 2/11 建国記念の日 2/23 天皇誕生日 3/21 春分の日

目 次

I	はじめに	6
II	教育目標	7
III	全学教育科目の方針と内容	8
IV	本学の授業実施方法	10
	1. 学年と学期	10
	2. 期	10
	3. 休業日	10
	4. クラス編成	10
	5. 授業時間	11
	6. 授業科目と単位制度	12
	7. 履修登録単位数の上限設定	12
	8. 単位の認定	13
	9. 成績評価及び GPA 制度	13
	10. 履修取り下げ制度	15
	11. 成績評価に関する問合せ	16
V	授業時間割と履修計画	17
VI	履修手続と履修	20
	1. 履修手続	20
	2. 受講調整	20
	3. 履修	20
	4. 重複履修科目の単位	20
	5. 再履修・単位の補充	21
VII	試験と成績	22
	1. 試験	22
	2. 追試験	22
	3. 再試験	22
	4. 不正行為について	23
	5. 成績評価	23
	6. 既修得単位の認定	24
VIII	自然災害等に伴う授業及び学期末試験の取扱い	25
IX	学生への情報連絡の手段等	26
X	学部・学科別授業科目区分ごとの履修基準一覧（2022 年度入学生用）	29
	1. 文学部	30
	2. 教育学部	32
	3. 法学部	34
	4. 経済学部	36

5.	情報学部：自然情報学科	38
6.	情報学部：人間・社会情報学科	40
7.	情報学部：コンピュータ科学科	42
8.	理学部：数理学科	44
9.	理学部：物理学科	46
10.	理学部：化学科	48
11.	理学部：生命理学科	50
12.	理学部：地球惑星科学科	52
13.	医学部：医学科	54
14.	医学部：保健学科	56
15.	工学部：化学生命工学科	58
16.	工学部：物理工学科	60
17.	工学部：マテリアル工学科	62
18.	工学部：電気電子情報工学科	64
19.	工学部：機械・航空宇宙工学科	66
20.	工学部：エネルギー理工学科	68
21.	工学部：環境土木・建築学科	70
22.	農学部	72
XI	各授業科目及び履修に関する注意事項	74
1.	「大学での学び」基礎論	74
2.	基礎セミナー	75
3.	言語文化科目	77
	(1) 外国語の履修について	77
	(2) 英語	79
	(3) 初修外国語	84
	(4) 検定試験による単位認定制度	89
	(5) 日本語	92
4.	健康・スポーツ科学科目	95
5.	データ科学科目	100
6.	国際理解科目	102
7.	現代教養科目	104
	(1) 人文・社会系	104
	(2) 自然系	105
	(3) 学際・融合系	106
8.	超学部セミナー	107
9.	人文・社会系基礎科目	108
10.	自然系基礎科目	109
11.	東海国立大学機構での取り組み	110
XII	関係資料	112
1.	名古屋大学全学教育科目規程	112
2.	全学教育棟などの講義室配置図	122
◎	教養教育院大地震対応マニュアル	124

名古屋大学は、21世紀の国際社会における本学の教育、研究、人材育成の基本理念を示すため、2000年2月に「名古屋大学学術憲章」を制定しました。

そして、名古屋大学は研究面の拠点大学であると同時に、教養教育の重点大学となることを社会に宣言しました。「学術憲章」では、自発性を重視する教育実践によって、論理的思考力と想像力に富んだ勇氣ある知識人を育てることを基本目標の一つとして掲げています。

「勇氣ある知識人」とは何でしょう。よりよい未来社会を築き担っていかこうとする姿勢と、それができるだけの素養・能力を備えたひとのことです。その素養・能力には当然のことながら、豊かな知識が含まれます。だから「知識人」でなければなりません。そして、その豊かな知識を現実に当てはめ、人々のより幸せな未来のために用いていかこうとするコミットメントが必要です。しかし、それをしようとする、さまざまな軋轢が生じるでしょう。その軋轢を恐れることなく、学んだ知識・技能を役立てようとする勇氣が必要です。哲学者のカントも、「己れの悟性を使用する勇氣をもて」これが啓蒙の標語だ、と述べています。「勇氣ある知識人」をわれわれの教育目標に掲げたのは、こうした思いに基づいています。

勇氣ある知識人が身につけるべき素養・能力を授ける教育は、教養教育と呼ばれてきました。リベラル・アーツ教育とも呼ばれています。この「リベラル」は古代ギリシア民主政における、奴隷でない存在、つまりよき生を主体的に探求し公共的議論を通じて社会を動かしていく「自由人」に由来します。教養は自由人のための知でもあるのです。

名古屋大学では、この教養教育を全学の教員が学部卒組を超えて協力する形でつくりあげています。そのため、学部専門教育に対比して「全学教育」とも呼んでいます。そこで開講されている科目が「全学教育科目」、というわけです。

勇氣ある知識人が身につけるべき素養・能力としての教養には、時代や地域を超えて変わらぬ部分と、それらに応じて柔軟に変化すべき部分の両面があります。その両面に対応し、よりよい教養教育を提供するため、2022年度から全学教育科目カリキュラムを大幅に変更しました。その詳細については次々ページを参照ください。

この「全学教育科目履修の手引 STUDENTS' GUIDE」は、本学の学生が全学教育科目を履修するにあたり、あらかじめ知っておかなければならない学修上の注意事項をまとめたものです。皆さんは本冊子をよく読むとともに、入学当初に開催する「学部ガイダンス」にも必ず出席して、間違いのないように、賢明に授業計画を立ててください。皆さんが授業計画を立てるにあたって不明な点や疑問に思う点があれば、所属学部の教務担当窓口または教養教育院事務室に問い合わせてください。また、指導教員（クラス担任）も皆さんの様々な疑問に応じてくれますから、遠慮なく訪問するようにしてください。

履修する科目の選択から実際に授業に参加し成績評価を受けて単位を取得するまでには、みなさんはさまざまな情報を自ら進んで収集し自分で判断する必要があります。そのための情報はおもに3つのチャンネルによって提供します。全学教育科目全体にかかわることがらは「名古屋大学ポータル」の教養教育院ページ、それぞれの科目の目的や内容・履修条件などは「名古屋大学ポータル」の教務システムから参照するシラバス、それぞれの科目で提供される授業資料や自習用課題・補足資料などは「NUCT」を通じて情報提供されます（詳細は26ページ「IX 学生への情報連絡の手段等」参照）。みなさんは、できるだけ早くこれらのシステムの使い方に習熟し、つねに自立的、自発的に情報収集に努めてください。

みなさんが教養教育の意義を正しく理解して勉学に励んでくださることを人類の一員として期待しています。みなさんが、主体的、意欲的に学び、才能を豊かに花開かせるとともに、未来社会の担い手に育っていくことができますように。

Ⅱ 教育目標

みなさんが暮らすことになる未来の世界は、これまでになく予測不可能なものになりそうです。環境、エネルギー、文化間・階層間の衝突といった問題はまだ解決されないまま、「先進国」では人工知能やロボットの導入により現在の仕事の半数近くがなくなると予想される一方で、100年も生きなくてはいけない。…いったいどんな社会になるのでしょうか。というより、どんな社会を目指していけば良いのかすら明確ではありません。しかも変化のスピードは増すばかり。みなさんが身につけた「最先端知識」はすぐに当たり前のことになってしまいます。このような時代をポジティブに生き、すべての人々にとってすこしでも幸せな社会を構想・実現しそれを担う知的能力と意欲を備えた人材を養成する教養教育の重要性は、ますます増大しています。

教養教育は単なる「専門教育を受けるための準備」ではありません。狭い領域を掘り下げる専門知識を学ぶ前に「広く浅くいろんな知識を学んでおくこと」でもありません。いまある社会のいまある仕事をこなしていくための「社会人力の基礎を涵養すること」でもありません。教養教育は何か別のものための「準備」ではなく、それ自体完結した目標を持っています。すなわち、未来社会の設計者としての心的態度（マインドセット）を育てることです。これにそれぞれの専門的スキルと知識が加わることによって、初めてみなさんは人類社会に貢献する「勇気ある知識人」に自己を形成することができるのです。

本学は、人類の未来から教養教育に付託された使命の実現に向けて、次の諸点に力点を置いて高度な教養教育を実現しようとしています。

(1) 四年一貫の系統的なカリキュラムの編成

全学教育、学部教育は、それぞれの教育理念と目的に従って、系統的な四年一貫教育（医学部医学科は六年一貫教育。）を全学的協力のもとに実施する。

(2) 総合的な判断力の養成

個別的授業科目の羅列ではなく、学際的視野や相互関連的知識を与え、現代社会が直面する基本的な課題群に総合的に対処し得る能力を養成する。

(3) 学生の主体性と学ぶ意欲の尊重

学生が自ら選んだ専攻に関連する科目を主体的に履修できるよう、科目の適正な学年配分を行うとともに、他学部が開講する科目や全学的に開講される科目を履修できる途を開く。

(4) 国際化への対応

基礎教育としての外国語教育を強化するとともに、外国語を通じて異文化理解を深め、21世紀の国際社会に即応できる人材を養成する。

教養教育院では、各学部の卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）及び教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）を踏まえて、次の教育目標を掲げ、実現するための教育課程を編成しています。

- | | |
|-------------------------|--------------------------|
| ①総合的な判断力と思考力を培う | 国際理解科目、現代教養科目など |
| ②学生の主体性と、学ぶ意欲を育む | 基礎セミナー、超学部セミナーなど |
| ③人間性を育むコミュニケーション能力を培う | 健康・スポーツ科学科目、
言語文化科目など |
| ④学部間に共通の基礎的学力を培い、探究心を養う | 人文・社会系基礎科目、
自然系基礎科目など |

Ⅲ 全学教育科目の方針と内容

以上の教育目標を果たすため、2022年度入学者から全学教育科目を大幅に変更しました。その方針は以下のとおりです。

1. 方針

知識詰め込み型に陥ってしまいがちだった傾向を改め、学生の主体的学びを重視した質の高い「知」の獲得を目指す教育システムを構築する。

全学教育の教育改革の方向性として示された上記目標の実現のため、以下の方針で共通教育カリキュラムを編成する。

- ① ICT等を活用し知識伝達と能動的学習とのメリハリをつけることにより、アクティブラーニング主体の教育へ転換する。
- ② 「専門の準備としての教養教育」という考えを改め、専門教育の深まりに応じて、初年次から大学院までシームレスに展開する共通基礎科目教育と教養教育を展開する。
- ③ 数理・データ科学教育を充実させる。
- ④ 学部を超えた共同学習による専門分野の相対化をはかる超学部セミナーを実施する。
- ⑤ 学生に深い学びの機会を与え、成績評価を厳格化するため、総単位数を見直す。
(卒業要件単位数を大学設置基準が定める最低数を大きく上回らないようにする。学部 124 単位，医学科 188 単位)

旧カリキュラム

基礎科目	
全学基礎科目	
基礎セミナー	
言語文化	言語文化Ⅰ 言語文化Ⅱ 言語文化Ⅲ
健康・スポーツ科学	
文系基礎科目	
理系基礎科目	
教養科目	
文系教養科目	
理系教養科目	
全学教養科目	
開放科目	

新カリキュラム(2022年度～)

共通基礎科目	
「大学での学び」基礎論	
基礎セミナー	
言語文化科目	英語 初修外国語 日本語
健康・スポーツ科学科目	講義 実習
データ科学科目	
教養科目	
国際理解科目	
現代教養科目	
超学部セミナー	
分野別基礎科目	
人文・社会系基礎科目	
自然系基礎科目	

2. 全学教育科目の科目区分とその内容

本学における授業科目の種類は、学部科目（専門系科目）と全学教育科目があります。ここでは、全学教育科目の詳細を説明します。

科目区分		内 容
共通基礎科目		「自立した主体的学び」へと学習姿勢を転換し、よりよい未来社会を構築しそれを担う「勇気ある知識人」となるために、すべての学生が専門分野によらず共通に身につけるべき基礎的素養（汎用力・課題発見／解決力）を育む
「大学での学び」基礎論		大学とは何か、大学で学ぶとはいかなることか、大学での学びを充実したものにするにはどのような知恵が必要かについて理解し、主体的な学習者としての態度の核を形成する
基礎セミナー		少人数のセミナー形式による多面的な知的トレーニングを通じて、真理探究の面白さに触れるとともに、主体的な学びに必須の「調べ、考え、書き、話す」能力を涵養する
言語文化科目	英語	学問の世界の共通言語、かつ国際社会で活躍するために必須の言語である英語によるコミュニケーション能力を高め、世界に通ずる窓を開く
	初修外国語	英語以外の外国語の学修を通して、多様な異文化に対する理解と寛容性を身につけ、国境を越えてよりよい未来社会の構築をめざして協同するために必須の複数外国語運用能力の基礎を築く
	日本語	日本語の能力を高め、日本の文化と社会に対する理解を深めることにより、留学生活における主体的学びのための基礎能力を身につける
健康・スポーツ科学科目	講義	健康に関する知識と自己管理能力及び運動・スポーツ習慣の必要性など、生涯スポーツの基礎となる知識を習得する
	実習	スポーツの実践を通して、運動・スポーツの楽しさを味わい、運動習慣獲得の基礎となる技能、コミュニケーション能力とリーダーシップ、チームワーク形成能力を身につける
データ科学科目		社会の様々な場面で新しい価値を生み出す基盤となるデータ分析能力を身につけるために、その基礎的知識と汎用的な分析技能を獲得する
教養科目		教養ある「勇気ある知識人」として専門知を人類社会の問題解決に活用し幸福な未来を構築していく。そのために重要な資質である「異分野・異文化に開かれた態度」「分野を超えた幅広い知識への関心」及び「自己とその専門分野を相対化する視点」を獲得する
国際理解科目		「異文化との出会い」を契機に、世界には多様な価値観があることを認識し、近現代の国際関係に関する知識と事項の文化に関する知識を身につける。これを通じて、自らの主張を展開する力と文化的社会的な寛容性とを兼ね備えた、国際社会で活躍しうる人間に成長するための基礎を築く
現代教養科目		現代社会が抱える課題の理解を踏まえ、その課題に対する学際的・総合的分析能力を養うとともに、目指す専門分野と他分野との関連性を理解することによって、専門知の社会的役割を認識し、自らの専門分野を相対化する視点を身につける(注1)
超学部セミナー		自らの目指す専門性が自覚された学部3～4年次において、異なる分野を学ぶ学生が学部・学年を超えたチームを組み、自主的に設定した課題の解決のためにみんなで考え力を合わせる主体的経験を共有する。これを通じ、リーダーシップとチームワーク、異分野への開かれた態度、多様な人々の協調による課題解決能力を身につける
分野別基礎科目		専門分野の学習の基盤となる最も基礎的な知識と技能を身につける
人文・社会系基礎科目		人文・社会科学系の専門分野を学んでいく基盤として、それぞれの分野における学問体系を理解し、最も基礎的な知識と技能を身につける
自然系基礎科目		自然科学系の専門分野を学んでいく基盤として、それぞれの分野における学問体系を理解し、最も基礎的な知識と技能を身につける

注1 下位分類として人文・社会系、自然系、学際・融合系に分けたうえで学部に応じて修得すべき系を指定できるようにする。なお、後期教養教育として、専門をある程度学んだ3～4年次に履修する科目を配置する。

IV 本学の授業実施方法

1. 学年と学期

学年は4月1日に始まり、翌年3月31日に終わります。この1年間を年度といいます。

本学では、セメスター（2学期）に加え、クォーター（4期）で授業が実施できるよう学期を設定しています。

学年（年度）を春学期・秋学期の2つに分けた上で、さらに各学期の授業期間を2つに分け、前半を春1期・秋1期、後半を春2期・秋2期といいます。

セメスターの授業については15週分、クォーターの授業については8週分の授業が行われます。

- ・春学期（前期）4月1日から9月30日まで
- ・秋学期（後期）10月1日から3月31日まで

本年度の授業日程は、本冊子の表紙裏面（2-3ページ）に示したとおりです。

2. 期

在学期間は、原則として通常4年間（医学部医学科は6年間）なので、その間に8つの学期が含まれることになります。

入学年度の春学期から順次、通し番号をつけて次のように呼びます。

1年次		2年次		3年次		4年次	
春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期
I期	II期	III期	IV期	V期	VI期	VII期	VIII期

期の順番を現す数字はローマ数字を使用します。

3. 休業日

授業を行わない日を休業日といいます。本学の休業日は、次のとおりです。

ただし、休業日であっても、教育上必要がある場合には授業を行うことがあります。

<定期的なもの>

- ・1日限りのもの 日曜日、土曜日、国民の祝日に関する法律に規定する休日
- ・長期のもの 夏季休業、冬季休業

4. クラス編成

本学に入学した学生は、学修上の便宜から入学当初に、入学年次・所属学部等を考慮して、次のようなクラスに編成されます。

このクラス編成は、履修ガイダンス時等に所属学部から通知されます。

◇クラス編成表

学 部	文：125				教育：65		法：150				経済：205					
学科等名																
ク ラ ス	1	2	3	4	1	2	1	2	3	4	1	2	3	4	5	6
学 生 数	32	31	31	31	33	32	38	38	37	37	35	34	34	34	34	34

学 部	情：135			理：270											
学科等名	自然：38	人社：38	コン：59												
ク ラ ス	1	2	3	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
学 生 数	38	38	59	23	23	23	23	23	23	22	22	22	22	22	22

学 部	医：307							農：170						
学科等名	医:107		保健：200					環境:35		資生:55		生命：80		
ク ラ ス	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7
学 生 数	54	53	40	40	40	40	40	18	17	28	27	27	27	26

学 部	工：680																		
学科等名	化生：99			物工:83		マテ：110			電情：118				機航：150			球	土建:80		
ク ラ ス	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
学 生 数	33	33	33	42	41	37	37	36	30	30	29	29	38	38	37	37	40	40	40

注意

- (1) 学部名及び学科名等の後の数字は、学生定員を示している。
(2) 情報学部，医学部，工学部及び農学部は、学科ごとにクラスを編成する。
【情報学部学科略称】 自然：自然情報学科 人社：人間・社会情報学科 コン：コンピュータ科学科
【工学部学科略称】 化生：化学生命工学科 物工：物理工学科 マテ：マテリアル工学科
電情：電気電子情報工学科 機航：機械・航空宇宙工学科
エネ：エネルギー理工学科 土建：環境土木・建築学科
【農学部学科略称】 環境：生物環境科学科 資生：資源生物科学科 生命：応用生命科学科

5. 授業時間

通常1科目当りの授業時間は、2時間（実時間90分）ですが、実験などの場合は4時間（実時間180分）となることもあります。

各授業の始めと終わりは次のようになっており、その日の最初の授業から下表のように順次、第〇時限という言い方をしています。物理学実験，化学実験，生物学実験，地球科学実験などの4時間連続の授業は、2時限にわたる授業です。

8:45 ～ 10:15	休み	10:30 ～ 12:00	休み	13:00 ～ 14:30	休み	14:45 ～ 16:15	休み	16:30 ～ 18:00
第1時限		第2時限		第3時限		第4時限		第5時限

6. 授業科目と単位制度

授業科目は授業の形態により次の授業形式に分けられます。

また、大学では学生の学修を数量的に表示するために単位制度が採られています。

授業形式	内容	1週間1授業時間の場合、半期の単位数	科目区分等
講義	授業が、担当教員の講ずることを中心として進行する形態のものをいう。	2時間×8週 (実時間 90分) 1.0単位	「大学での学び」基礎論、 データ科学科目講義
		2時間×15週 (実時間 90分) 2.0単位	健康・スポーツ科学講義 国際理解科目 現代教養科目 人文・社会系基礎科目、 自然系基礎科目（実験を除く）
演習	授業が、受講人員の制限のもとで、学生の主体的な学修を中心として進行する形態のものをいう。	2時間×8週 (実時間 90分) 1.0単位	多言語修得基礎 データ科学科目演習
		2時間×15週 (実時間 90分) 1.0, 2.0単位	基礎セミナー、 言語文化科目 国際理解科目の一部、 超学部セミナー
実習	授業が、学生の実地または実物について学修、あるいは、学生の実技や技能についての修得などを中心として進行する形態のものをいう。	2時間×15週 (実時間 90分) 1.0単位	健康・スポーツ科学実習
実験	授業が、実験で行われる形態のものをいう。	4時間×15週 (実時間 180分) 2.0単位	自然系基礎科目のうち 物理学実験、 化学実験、 生物学実験、 地球科学実験

※どの授業科目がどの単位数になるかは「XI 各授業科目及び履修に関する注意事項」で確認してください。

7. 履修登録単位数の上限設定

履修登録単位数の上限設定（キャップ制）は、学修する授業科目・単位数を精選することで十分な学修時間を確保して、内容を真に身につけられるようにし、各年次にわたって適切に授業科目を履修することを目的とし、各学部・学科において、学生が1年間又は1学期に履修科目として登録することができる単位数の上限を定めています。

所定の単位を優れた成績をもって修得した学生は、履修登録単位数の上限値を緩和することができます。

履修登録単位数の上限設定、緩和条件等は、各学部において決定していますので、詳細は各学部の学生便覧等で確認してください。

なお、原則として、以下の科目は履修登録上限単位数に算入しません。（学部・学科により取扱いが異なることがあります。）

- ・「教科に関する専門的事項」を除く教員免許状取得に関する科目
- ・集中講義科目
- ・単位互換他大学科目（海外、オンラインを含む）
- ・外国語検定試験認定科目
- ・入学前の既修得単位認定科目
- ・特別履修科目

8. 単位の認定

履修した授業科目については、平常の評価、レポート及び試験等を実施して総合的に評価し、各学期末に単位の認定をします。

なお、成績評価の方法及び基準については、授業要覧（シラバス）で確認してください。学期末試験等の内容、実施方法及び留意事項等については、授業担当教員から指示されるとともに、全学教育科目は全学教育棟の掲示板や[名古屋大学ポータル](#)にて周知しますので、各自確認して受験してください。

また、各期末には[名古屋大学ポータル](#)にて成績・修得科目が修得科目確認表として通知されますので、必ず各自で確認をしてください。

9. 成績評価基準及び GPA 制度 ※詳細は、2022 年度名古屋大学学生便覧を参照してください。

(1) 成績評価及び評価基準等

成績評価は、授業科目によって 6 段階評価（A+, A, B, C, C-, F）又は 2 段階評価（P, NP）のいずれかが用いられます。不合格の場合は単位を修得できません。

評価記号等に対応する評価基準等は次のとおりです。

	評価記号等	合否等	評価基準等
6 段階評価	A+	合格	際立って優れている。主題を全て理解し、広範な知識を持ち、概念や方法を巧みに使いこなして高度な課題を遂行できる。
	A		優れている。主題のほとんどを理解し、必要な知識を持ち、概念や方法を適切に使って課題を遂行できる。
	B		良好である。主題を十分理解し、問題・題材を扱うことができる。
	C		良好な面もあるが不足も目につく。主題の基本的な部分を理解し、比較的簡単な問題を扱うことができ、より高度な学修に進める状態になっている。
	C-		最低限の基準に達している。主題を最低限理解し、簡単な問題を扱うことはできるが、より高度な学修へと進むには更に努力が必要である。
	F	不合格	最低基準を満たしていない。
2 段階評価	P	合格	合格（合否等により成績評価を行う授業科目）
	NP	不合格	不合格（合否等により成績評価を行う授業科目）
その他	T	合格	認定（入学前や他大学等で修得した単位）
	W	---	学生から履修継続の意思がないことが申し立てられたため又は様々な合理的理由（課題が提出されない、試験を受験しない等）から学生に履修継続の意思がないと教員が判断したため、成績評価を行わないことを示す。

授業科目によっては、100 点満点による評価を行った上で 6 段階評価に換算する場合があります。その場合の標準的な方法は次のとおりです。ただし、この換算表によらない場合がありますので、個々の授業科目のシラバスを確認してください。

評価記号	A+	A	B	C	C-	F
100 点満点評価	95 点以上	80 点以上 95 点未満	70 点以上 80 点未満	65 点以上 70 点未満	60 点以上 65 点未満	60 点 未満

(2) GPA 制度

本学では、学生の自律的な学修の促進及び成績評価の国際通用性を高めるための方策の一環として、グレード・ポイント・アベレージ（履修科目の成績の平均値。以下「GPA」という）制度を導入しています。

① 評価記号と GP の対応

グレード・ポイント（各評価に与えられる数値。以下「GP」という。）は、次のとおり変換します。GP は学部学生のみ適用し、大学院学生には適用されません。したがって、GPA は学部学生のみ算出しています。

評価記号	A+	A	B	C	C-	F
GP	4.3	4.0	3.0	2.0	1.0	0

② GPA の種類及び算出方法

GPA は、当該学期における学修の状況及び成果を示す指標としての GPA（学期 GPA）及び在学中における全期間の学修の状況及び成果を示す指標としての GPA（累積 GPA）の 2 種類があり、計算式は次のとおりです。算出された数値に小数点以下第 2 位未満の端数があるときは、これを四捨五入します。

$$\text{学期 GPA} = \frac{\text{当該学期における A+ の単位数} \times 4.3 + \text{A の単位数} \times 4.0 + \text{B の単位数} \times 3.0 + \text{C の単位数} \times 2.0 + \text{C- の単位数} \times 1.0}{\text{当該学期における A+ の単位数} + \text{A の単位数} + \text{B の単位数} + \text{C の単位数} + \text{C- の単位数} + \text{F の単位数}}$$

$$\text{累積 GPA} = \frac{\text{在学中の全期間における A+ の単位数} \times 4.3 + \text{A の単位数} \times 4.0 + \text{B の単位数} \times 3.0 + \text{C の単位数} \times 2.0 + \text{C- の単位数} \times 1.0}{\text{在学中の全期間における A+ の単位数} + \text{A の単位数} + \text{B の単位数} + \text{C の単位数} + \text{C- の単位数} + \text{F の単位数}}$$

③ GPA への算入・不算入

- ・卒業要件に関わる授業科目を算入します。
- ・随意科目及び教職科目等の卒業要件に関わらない授業科目は算入しません。
- ・P, NP, T 及び W をもって評価された授業科目は算入しません。
- ・再履修した授業科目の GPA の取扱い
 - F の評価を受けた授業科目を再度履修して A+, A, B, C 又は C- の評価を受けた場合には、F の評価は累積 GPA に算入しません。
 - F の評価を受けた授業科目を再度履修して F の評価を受けた場合には、F の評価は、累積 GPA に複数回算入しません。
 - F の評価を受けた後に、検定試験の成績による単位認定等により T の評価を受けた場合には、F の評価は累積 GPA に算入しません。
 - 単位を修得した授業科目を再度履修して A+, A, B, C, C- 又は F の評価を受けた場合には、再度履修した授業科目の評価は、GPA に算入しません。
 - 以上の場合において、重複して履修することが認められている授業科目は、この限りではありません。

④ GPA の表示

GPA は各学期末の修得科目確認表に、学期 GPA 及び累積 GPA が記載されます。

なお、証明書自動発行機で発行される成績証明書には累積 GPA が記載されます。

10. 履修取り下げ制度

本学では、GPA 制度の導入に伴い、履修取り下げ制度を導入しています。GPA の算出にあたり、F は算入するため GPA の数値を低下させ、W は算入せず GPA の数値に影響を与えないことから、評価が F であるか W であるかは大きな違いとなります。

このため、履修登録をしたが履修・単位修得の意思がなくなった授業科目については、指定期日までに、授業担当教員の指定した方法により履修の意思がない旨を意思表示すること（履修取り下げ）により、当該科目は W となります。履修取り下げの申し出期日は、春学期は 5 月末、秋学期は 11 月末としていますが、授業の事情により異なる場合がありますので、必ず担当教員に確認してください。

シラバスはこの制度の運用を前提にして作成されています。履修人数など授業のさまざまな条件により、いくつかの記載の可能性がありますので、履修取り下げの意思が生じた場合、以下に従ってその意思を明確に教員に伝えてください。不明の点は、必ず教員に確認してください。

- (1) シラバスに「学期途中で履修の意思がなくなった場合、履修取り下げを申し出る必要がある」と記載されている場合

履修取り下げは、履修科目の NUCT 講義サイトを通じて授業担当教員へ申し出てください。申し出の期限は、授業担当教員に確認してください。

あらかじめ教員が定めた期限までに「履修取り下げ」の申し出がない場合は、学期末試験の欠席、レポートの未提出、講義・演習・実験などへの出席日数の不足の場合でも、学期末試験（レポートを含む）の不合格の場合と同じく、成績判定は「F」となります。原則として、「履修取り下げ」の申し出をしなかった学生に対して「W」の成績判定は行えません。ただし、病気、事故、不登校等の事由で「履修取り下げ」の申し出がない（できない）等の事情のある場合の成績評価については、担当教員の判断で「W」とすることがあります。

「履修取り下げ」の申し出がされた場合は、成績評価は「W」となります。

- (2) シラバスに「履修取り下げにあたり、履修取り下げの申し出を必要としない」と記載されている場合

履修者がきわめて多数であるため、「履修取り下げ」の申し出の授受、管理等に困難があるなどの場合、「履修取り下げ」の申し出を条件とせず、学期末試験の欠席、レポートの未提出等の場合の成績判定を、「F」ではなく「W」とすることがあります。この場合、シラバスの「成績評価の方法」において、中間テスト、レポート、授業への貢献の扱いなど、どのような場合に「W」評価となるかについて、記述されているはずですが、または、講義のイントロダクションなどにおいて、「学期末試験を受験しなかった場合の評価は『W』とする」、「レポートの未提出や出席日数が不足する場合、学期末試験を受験しても『F』となることもある」等「成績評価の方法」、つまり「W」と「F」の基準についての具体的な指導がなされることになっています。

そのような記載や指導がなく、履修を取り下げたい場合、成績評価の方法について授業担当教員に確認の上、指示に従ってください。

- (3) シラバスに「学期途中で履修の取りやめを希望する場合は、担当教員の許可を必要とする」等と記載されている場合

セミナー等で個々の学生に役割分担が与えられる場合など、履修の安易な取り下げが授業全体の実施に支障をきたす場合も考えられます。

その場合、「履修を取りやめる場合は、担当教員の許可を必要とします」などの記載がシラバスになされているはずですが、このとき、事情によりどうしても履修の取りやめを希望する場合は、担当教員に相談し、その指示に従ってください。

その結果、履修取り下げが認められた場合、成績評価は「W」となります。なお、病気、事故、不登校などの事由で、「履修取り下げ届」の提出がない（できない）等の事情がある場合の成績評価については、担当教員の判断で「W」とすることがあります。

11. 成績評価に関する問合せ

全学教育科目の成績評価に関して疑義が生じた場合は、書面により問い合わせてください。成績が発表された日から原則3日以内（成績発表日を含む）に、教養教育院事務室へNUCTから「成績評価照会票」を提出してください。詳しい手続方法は、[名古屋大学ポータル](#)に掲載します。

なお、受講した科目が表示されていない科目については、直接教養教育院事務室へお問い合わせください。

* 専門系科目については、各学部教務学生係等の指示に従ってください。

V 授業時間割と履修計画

1. 履修計画の立て方

学生は、所属する学部の卒業要件を満たす単位を修得しなければなりません。また、進級要件が定められている学部においては、所定の年限までにそれを満たす単位を修得しなければなりません。従って、それらの要件を満たしうるように、全学教育科目や各学部が開講する学部科目の履修計画を立てる必要があります。それにとどまらず、各自の修学の目的や学問的な関心に応じて十分と思われる勉学を行うことができるように、主体的な判断に基づいて、履修計画を立てるよう心掛けることが重要です。

[履修計画の検討の手順]

- ① 本冊子の「X 学部・学科別授業科目区分ごとの履修基準一覧（2022年度入学生用）」（29ページ）及び各学部の学生便覧で履修要件を確認
- ② 本冊子の「XI 各授業科目及び履修に関する注意事項」（74ページ）で、各科目を確認
- ③ 『全学教育科目授業時間割表 COURSE TIMETABLE』の「授業時間割A表」で、所属学部向けに開講されている曜日・時限ごとの大まかな科目区分を把握
- ④ 「授業時間割B表」で各授業科目の科目名、担当教員及び講義室等を確認
- ⑤ 「全学教育科目授業要覧（SYLLABUS）」でそれぞれの科目の授業内容等を確認し、履修したい科目を確認

[注意事項]

- ・ 各学部の卒業要件を満たす単位を在学中に無理なく履修できる機会を全ての学生に保証するため、あるいは各授業科目の目的や内容によっては段階的な履修が必要になるため、全学教育科目の時間割表は受講できる学部・クラスを指定することを前提として作成されています。このため、履修計画を立てる際は、「学部またはクラス指定の授業科目」を選択してください。
- ・ 下位年次生が上位年次生の授業科目を履修することは原則としてできません。
- ・ 同一科目を2回以上履修し、試験に合格しても、卒業要件単位としてはそのうち1科目しか認められません。ただし、言語文化科目については複数科目が卒業要件単位として認められる場合があります。

2. 全学教育科目の授業時間割表（COURSE TIMETABLE）について

(1) 授業時間割表（A表）

2022年度の全学教育科目及び各学部の学部科目の開講時間帯を概略的に表示したものです。

(2) 授業時間割表（B表）

- ・ 2022年度に開講する具体的な授業時間割（授業科目、担当教員、学部・クラス指定、講義室など）を、期・曜日・時限ごとに表示したものです。
- ・ 授業時間割表（B表）のすべての授業科目には「時間割コード」が付してありますが、このコードは履修手続きを行う際に必要となります。
- ・ 各曜日・時限に開講される授業科目は毎年度新たに生まれ、それに伴い、時間割コードも毎年変わります。

- 学部指定オビ以外（注）に開講される言語文化科目は、対象学部が「全学部」として表示されています。

（注）「オビ」：時間帯（一つの曜日・時限）

「学部指定オビ」：所属する学部，学科の指定がされている時間帯

「学部指定オビ以外」とは，学部，学科の指定がされていない時間帯

【授業時間割表（COURSE TIMETABLE）参照方法】

※詳細は 26 ページ 「IX 学生への情報連絡の手段等」を参照してください。

① 名古屋大学ポータル (<https://portal.nagoya-u.ac.jp/>) にログイン

② 「教養教育院」をクリック→教養教育院からのお知らせ，学生メニュー等に記載

名古屋大学 ID 配付前は，[教養教育院ホームページ](https://www.ilas.nagoya-u.ac.jp/) (<https://www.ilas.nagoya-u.ac.jp/>) - 「お知らせ」から確認してください。

3. 全学教育科目授業要覧（SYLLABUS）について

全学教育科目授業要覧（SYLLABUS）では，授業科目ごとに，担当教員名，授業の目的，達成目標，履修上の条件，授業内容，成績評価の方法，教科書，参考書などを表示しています。履修計画の作成に活用してください。

【全学教育科目授業要覧（SYLLABUS）参照方法】

※詳細は 26 ページ 「IX 学生への情報連絡の手段等」を参照してください。

① 名古屋大学ポータル (<https://portal.nagoya-u.ac.jp/>) にログイン

② 「学務」→「履修・成績」→「シラバス」をクリック

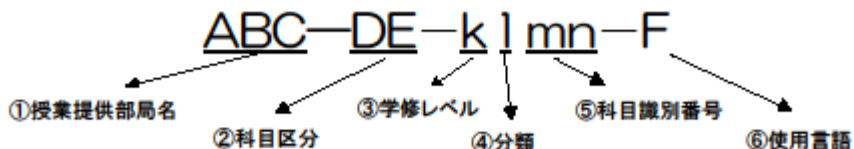
名古屋大学 ID 配付前は，[教養教育院ホームページ](https://www.ilas.nagoya-u.ac.jp/) (<https://www.ilas.nagoya-u.ac.jp/>) から確認してください。ただし，教養教育院ホームページのシラバスは簡易版で，授業の内容の詳細，成績評価基準，授業担当教員の連絡先等が掲載されていないことに留意してください。

4. コースナンバリング

名古屋大学全学教育科目のコースナンバリング・コードについて

カリキュラムの体系性を明示し、国際通用性を高めるため、全学教育科目の各授業科目を以下のように10桁の英数字で表しています。

学生のみなさんは、全学教育科目を体系的に履修するために役立ててください。



①授業提供部局

教養教育院が提供する全学教育科目：LAS

②科目区分

FS	基礎セミナー・大学での学び 基礎論
LC	言語文化科目
HS	健康・スポーツ科学科目
DS	データ科学科目
GL	国際理解科目
CL	現代教養科目
PB	超学部セミナー
BH	人文・社会系基礎科目
BN	自然系基礎科目

③学修レベル

0	全学教育科目基礎的レベル
1	全学教育科目発展的レベル

④分類

言語文化科目	1	英語
	2	ドイツ語
	3	フランス語
	4	ロシア語
	5	中国語
	6	スペイン語
	7	朝鮮・韓国語
	8	日本語
	9	上記以外
現代教養科目	1	人文・社会系
	2	自然系
	3	学際・融合系

※上記以外は9(新カリキュラム)

⑤科目を識別するための番号

⑥使用言語

J	日本語
E	英語
B	日英2言語併用
O	その他の言語

VI 履修手続と履修

授業科目を履修する場合には、次のような手続をする必要があります。

1. 履修手続

- (1) 各学期の初めまでに、その学期に履修しようとする授業科目（全学教育科目及び各学部が開講する学部科目）を選び、手続を行ってください。
- (2) この履修手続を行わなかった学生は、受講することも、その試験を受ける資格も与えられませんので注意してください。
- (3) なお、履修しようとする授業科目によって登録方法、期限や担当教員への受講手続方法が異なりますので注意してください。
- (4) 履修手続は Web 登録をして完了するのではなく、その都度、履修登録が正しくされているか、誤りがないかを確認することで履修手続完了となります。2 回目の履修科目の確認は、その学期に受講する全ての科目が掲載されていますので、履修登録に誤りがあった場合は、至急担当係（全学教育科目は教養教育院事務室、学部科目は所属学部の教務学生係等）へ相談してください。
- (5) 履修登録は Web（[名古屋大学ポータル](#)）で行います。詳細については、[教養教育院ホームページ](#)に掲載する『履修手続に関する注意事項』で確認してください。

2. 受講調整

授業科目の目的や内容を効果のあるものにするため、また、講義室や実験室の収容スペースなどを考慮し、適切な受講者数を決定するため、受講調整を行っています。

受講調整の方法は、[名古屋大学ポータル](#)に掲載する『履修手続に関する注意事項』で確認してください。

※受講希望に基づいて受講調整を行い、受講科目を決定しますので、受講する意志のない科目を Web（名古屋大学ポータル）に登録することのないように注意してください。間雲に受講希望を記載することは、履修登録単位数の上限設定（キャップ制）によりエラーになる可能性があります。また、履修登録をする他の学生の迷惑となりますので、十分注意してください。

3. 履修

- (1) 授業には毎回出席することが原則です。
欠席回数が多い場合は、学期の途中でも受講の許可が取り消されることがあります。また、試験を受ける資格が与えられないことがあります。
- (2) 教室外における自学自習の状態を評価する方法は、担当教員によって異なります。
たとえ授業には常に出席していても、教室外の自学自習に欠けることがあれば、(1)と同様の処置がとられることもあります。

4. 重複履修科目の単位

- (1) 原則として、同一科目を 2 科目以上履修し試験に合格しても、卒業要件単位としてはそのうち 1 科目しか認められません。
- (2) 言語文化科目については、同一科目であっても複数個が卒業要件単位として認められるものがあります。
ただし、履修上の制限がありますので、各言語の〔履修に関する注意事項〕を確認の上、受講してください。
- (3) 自然系基礎科目において、開講対象学部等以外の科目を履修し試験に合格しても、卒業要件単位として認められないことがありますので、〔授業科目表〕及び〔履修に関する注意事項〕を確認の上、受講してください。

5. 再履修・単位の補充

試験等の結果、「F」または「W」となった授業科目は、各学部が定める進級基準または卒業に必要な単位を修得するため、当該科目を再履修し、不足する単位を補充する必要があります。

不足する単位は、下位年次生対象の授業を受講するか、または他学部・他クラスの授業を履修することで単位を補充することができますので、必ず所属学部の教務学生係等に確認してください。

ただし、再履修する場合は、他に履修しなければならない授業科目と曜日時限が重複することが多く、困難が伴うことを覚悟しなければなりません。

詳細の方法は、『履修手続きに関する注意事項』で確認してください。

1. 試験

全学教育科目の試験に関する一般的な注意事項は、次のとおりです。

- (1) 原則として、各学期末に学期末試験を行います。
- (2) 試験は、筆記試験を原則としますが、筆記試験の代わりに、レポート提出、口述試験、実験報告などによることもあります。
- (3) 試験を受ける際は、机上に学生証を提示しなければなりません。
- (4) 試験の際、20分以上遅刻すると、試験室に入ることが許可されません。
受験している試験室からの退出が許可されるのは、試験開始後30分以上経過してからです。ただし、試験終了前の5分間は、退出が許可されません。
なお、退出した場合は、他の受験者の迷惑にならないよう静粛にしてください。
- (5) 試験時間は、すべて標準電気時計またはそれに合わせた監督者の時計によります。
- (6) 試験の際、不正行為を行ってははいけません。
万一、不正行為のあったときは、教養教育院の議を経て、所属する学部長に通知するものとし、各学部の教授会は、「名古屋大学学生の懲戒等に関する規程」により、何らかの措置（当該学生の当該学期に認定される全授業科目の単位をすべて無効とする等）を決定します。

2. 追試験

追試験とは、傷病、その他やむを得ない理由によって、学期末試験の一部ないし全部を受験できなかった者に対して行われる試験のことを言います。追試験に合格した場合には、その期の成績として認定されます。

- (1) 追試験を希望する者は、教養教育院長に願い出て、その許可を得なければなりません。
このため、追試験受験願に、追試験を希望するすべての授業科目について、所定の事項を記入し、
 - ① 傷病の場合は、医師の診断書 1通
 - ② その他の場合は、理由書とそれを証明できる書類 1通
 追試験受験願と①または②は、教養教育院事務室にそれぞれ提出してください。
- (2) 追試験受験願に不備がなく、審査の結果、その理由が正当と認められた場合に限り受験が許可されます。
- (3) 追試験受験願の提出期限及び追試験の期日・時間・試験室は、[名古屋大学ポータル](#)の教養教育院ページで発表します。
- (4) 追試験を受験できなかった場合の追々試験は実施しません。

3. 再試験

再試験とは、次の別表1及び別表2に掲げる科目を受講し、その期の学期末試験または追試験を受け、その成績が「F又はNP」となった者のうち、一定の要件を満たした者に対し、再度行われる試験のことを言います。再試験に合格した場合には、その期の成績として認定されます。

再試験の実施時期は、9月または3月です。科目によって実施時期が異なりますので、注意してください。

再試験は、成績が合格に達しなかった者に対し再度受験の機会を与えることにより、学生の履修上の便宜を図るものです。受講の実態の無い者や試験を欠席した者は、受験資格はありません。

- (1) 再試験を受験できる者は、再試験実施授業科目の成績が「F又はNP」となった者で、教養教育院が定める要件を満たす場合とし、対象者は[名古屋大学ポータル](#)の教養教育院ページにて発表します。
- (2) 再試験の期日・時間・試験室は、[名古屋大学ポータル](#)の教養教育院ページにて発表します。
- (3) 再試験の時間は、50分または90分です。（科目によっては授業担当教員が決定します。）
- (4) 再試験の成績評価は「C-」または「F」、もしくは「P」または「NP」で、「C-」または「P」は再試験を実施した期の単位として認定されます。
- (5) 再試験を受験できなかった場合の追試験は、実施しません。
- (6) 再々試験は、実施しません。

(国際プログラム群を除く。)

別表1 (学期末試験が行われた期に再試験を実施する科目【当該期再試験該当科目】)

科目 自然系基礎	物理学系	力学Ⅰ, 力学Ⅱ, 電磁気学Ⅰ, 電磁気学Ⅱ, 物理学基礎Ⅰ, 物理学基礎Ⅱ
	化学系	化学基礎Ⅰ, 化学基礎Ⅱ
	生物学系	生物学基礎Ⅰ, 生物学基礎Ⅱ
	地球科学系	地球科学基礎Ⅰ, 地球科学基礎Ⅱ

別表2 (学期末試験が行われた期の次期に再試験を実施する科目【次期再試験該当科目】)

言語文化科目	英語 (サバイバル) 注
--------	--------------

注 英語 (サバイバル) は、再試験に代えて合格認定試験を行うものとする。

4. 不正行為について

授業・試験等における不正行為は断じて許されることではありません。授業の際の小テスト、レポート及び学期末試験等における不正行為を絶対行わないでください。万一不正行為があった場合は、事実関係を調査したうえで、「名古屋大学学生の懲戒等に関する規程」に基づき、措置され、退学・停学・訓告処分が科せられることがあります。また、当該科目に止まらず、当該学期において修得した全授業科目の単位が不認定となり、事実上留年になります。

不正行為は期末試験、レポート提出期限、成果発表などの日が迫っているのに準備が追いついていない場合に起こしやすいとされています。良い成績を取りたい、単位を落としたりしたくないといった気持ちが先走り、いわゆるコピペやカンニングに走ったり、不完全な引用・参照が行われたりするのです。不正行為は、学生としての本分に反する行為であり、不正行為によって多大な不利益を被るのは自分自身であることをよく認識し、以下のことを心掛けたうえで授業や試験に臨んでください。

- ・試験時は答案作成に許可されたもの以外は、机上・机中や椅子上に置かず、かばんの中に入れ、かばんは口を閉めて足下等に置くこと。
- ・ウェアラブル端末、下敷きは使用しないこと。
- ・携帯電話・スマートフォンは電源を切り、かばんの中に入れること。
- ・レポート等の作成に際して、インターネット等からのコピー&ペーストや他人の著作物の盗用を行わないこと。
- ・調査・実験等において各種データの捏造・改ざんを行わないこと。

盗用：他人の研究内容又は文章を適切な手続きを経ることなしに流用すること

捏造：データ又は実験結果を偽造すること

改ざん：研究試料・機材・研究過程に操作を加え、又はデータ若しくは研究成果を変え、若しくは省略することにより研究内容を正しく表現しないこと

引用：「良識をもって学問をしよう！」高等教育研究センター
(<http://www.cshe.nagoya-u.ac.jp/support/file/integrity.pdf>)

5. 成績評価

- (1) 全学教育科目の単位の認定は、学期末試験、追試験及び再試験のほか、授業の履修状況等を踏まえ、総合的に成績を評価し、合格した者には、所定の単位が与えられます。
- (2) 成績評価は、「A+」、「A」、「B」、「C」、「C-」、「F」の6段階で表記されます。なお、「A+」、「A」、「B」、「C」及び「C-」は合格で、所定の単位が与えられます。
これを「単位の修得」といいます。「F」は不合格で、単位は与えられません。
ただし、この区分による成績認定が不可能な科目に関しては、P・NPの2区分となります。
- (3) 成績評価が「F」であった者のうち、教養教育院統括部における部会又は小部会が科目ごとに定める要件を満たす者は、再試験の対象となります。

- (4) 毎学期の成績は、春学期分は8月下旬（春1期は7月上旬）、秋学期分は2月下旬（秋1期は12月下旬）に、Web（[名古屋大学ポータル](#)）「修得科目確認（成績照会）」メニューで確認してください。
- (5) 「修得科目確認（成績照会）」メニューには、学期ごとに授業科目名・担当教員名・成績・単位数が掲載されます。一度修得した授業科目の成績・単位数は、これを取り消したり、以後の修得によって変更したりすることはできません。
- (6) 「修得科目確認（成績照会）」により、全学教育科目の成績評価について疑義がある場合は、成績が発表された日から原則3日以内（成績発表日を含む）に、教養教育院事務室へ「成績評価照会票を提出してください。手続方法は、[名古屋大学ポータル](#)に掲載しますので、[NUCT](#)から「成績評価照会票」を提出してください。

6. 既修得単位の認定

他の大学を卒業または退学し、新たに本学の1年次に入学した場合は、入学前に修得した科目及び単位について、本学で修得した単位として認定することがあります。

この認定は、個々の学生ごとに行われ、認定にかかる科目区分ごとの授業科目及び単位数は、各学部により異なりますのでそれぞれの所属学部の学生便覧を参照してください。

既修得単位の認定の申し出は、入学手続後、所属学部の指示に従い、所定の手続きをしてください。

なお、この申し出に際しては、以下の書類が必要となりますので、予め手元に取り寄せ、速やかに提出できるように用意しておいてください。

〔提出を要する書類〕

- ①入学前に単位を修得した大学の成績証明書及び卒業または退学証明書
- ②卒業または退学した大学の「授業要覧」等

〔提出先〕

所属学部の教務学生係（文系学部は文系教務課各学部グループ、工学部は教務課教務係、医学部医学科は学務課学務係）

Ⅷ 自然災害等に伴う授業及び学期末試験の取扱い

台風等または地震による災害が発生した場合、もしくは発生のおそれがあり警報等の情報が発表された場合の全学教育科目の授業及び学期末試験（追試験及び再試験を含む。以降「授業等」という。）の対応は次のとおりです。

1. 名古屋市内に台風等を伴う暴風警報、あるいは各種特別警報が発表された場合

台風等に伴い名古屋市に暴風警報、あるいは各種特別警報が発表された場合は、これらの警報発表後に開始される授業等は休講となります。ただし、これらの警報が解除された場合の授業等の実施については、別表のとおりです。

別表〔暴風警報・各種特別警報解除後の授業の実施〕

警報解除時刻	授業等開始時限
6：45 まで	第1限
以後 11：00 まで	第3限

〔注意事項等〕

- (1) 暴風警報が発表された際、既に大学に登校している場合は、経路の安全を確認し、危険な状況になる前に帰宅してください。
- (2) 登校途中に暴風警報が発表された場合は、登校せず、帰宅してください。
- (3) ICT による遠隔授業等は原則として休講になりません。この場合は講義のホームページや NUCT 等開講状況を確認してください。

2. 地震・火災が発生した場合

授業等の実施中に地震等が発生した時は、地震等の規模や周りの状況を冷静に判断し、まず身の安全を図ってください。

その後、授業等を速やかに中断し、授業担当教員の指示に従って、指定された一次避難場所へ避難してください。避難後は、大学（教養教育院）の指示に従ってください。

3. 南海トラフ地震臨時情報が発表された場合

2019年5月31日から「南海トラフ地震臨時情報」が発表されることになりました。この情報が発表された場合の対応は、国や地方自治体でも検討中ですが、授業の実施や帰宅などについては大学の指示に従って行動し、あわせて各自で情報収集に努めて安全を確保してください。なお、対応方針については今後追加・変更される可能性がありますので、注意してください。

4. その他、災害が発生した場合、もしくは発生のおそれがある場合

上記以外の場合において、授業等を実施することが困難であると判断されるときは、教養教育院において休講措置等の情報を[名古屋大学ポータル](#)等により通知します。

5. 代替措置

上記により中止となった場合の授業等の代替措置実施期日は、[名古屋大学ポータル](#)等により通知します。